

# 古墳特集、第二弾！ 坂戸市東部の古墳文化

〔特集記事〕埋蔵文化財出土品展大盛況！



中央に並ぶのは勇福寺遺跡出土の埴輪群。様々な展示品をじっくり観察する来場者の皆さま。

歴史民俗資料館では、年度ごとに発掘調査成果をまとめた冊子『埋文さかど年報』を刊行しています。「坂戸市埋蔵文化財出土品展」では、年報で紹介した遺跡から出土した土器などを展示するほか、特定の時代や遺跡に焦点を当てるテーマ展示にも力を入れています。

## 坂戸市の古墳時代を探る

昨年度の第二六回出土品展では、「大古墳展」と題して入西・大家地区を中心とした、坂戸市西部の古墳時代の様子について紹介しました。今年度の八月に開催した第二七回出土品展「大古墳展Ⅱ」では浅羽野・勝呂・三芳野地区など坂戸市東部の古墳時代の様子について紹介しました。今回の展示では、学芸員四人がそれぞれの地区を担当し、展示を作り上げました。学芸員ごとの個性が出た、異なる切り口からの展示となりました。

展示の目玉は、令和三年度に発掘調査を行った「勇福寺遺跡三区」から出土した大型の円筒埴輪です。直径約五〇cm、高さ七〇cmを測る埴輪は、会場内でも存在感を放っていました。

今年度は夏休みの自由研究応援企画として、市内各遺跡から出土した土器・石製品など、実際に触って体験できる「土と石の考古学」を同時開催しました。展示品の一つである黒耀石製の矢じりは透き通っていて、きらきらと光り、子どもたちは興味津々でした。触れる展示は子どもに限らず、大人にも大変好評でした。↓

連日の猛暑にも関わらず、六四一名の皆さまにご来場いただきました。中でも、二回実施したギャラリートークは大盛況で、会場は各回五〇名を超える参加者の熱気で包まれました。（解説資料は坂戸市ホームページで公開中！）

## 毛呂山町・坂戸市共催

### 文化財散策開催！

今年度の六月に、毛呂山町との共催事業として「歩いて学ぶ毛呂山町の史跡鎌倉街道」と坂戸市入西地域の文化財」を開催しました。毛呂山町歴史民俗資料館を出発し、大類地区や坂戸市内の小山地区・善能寺地区など全長一〇km程のコースを約四〇名の参加者と巡りました。毛呂山町の鎌倉街道や坂戸市の石上神社古墳など、各々の文化財に加え、塚原古墳群（苦林古墳群）など市域をまたいで存在するスポットも巡りました。

坂戸市からは約二〇名が参加し、入西地域に残る古墳を興味深く観察していました。



塚原古墳群（苦林古墳群）の墳丘に登り、古墳群を取り巻く環境を体感する参加者。

開催中

### 下半年企画展示

#### 「僕と、私と学校のあゆみ」

近代教育の黎明期から現代にわたる、初等教育を中心とした学校教育のあゆみをご紹介します。当時の学校で実際に使われてきた教科書や、在りし日の学び舎の姿を写した古写真をご覧ください。展示は資料館一階ホールで、令和六年一月一五日(月)から令和七年四月二五日(金)までを予定しています。※入場無料  
開催中

### 出張展示「古墳時代と中世の祈りが

#### 交差する三福寺遺跡」

入西地域交流センターで、三福寺遺跡の発掘調査成果を紹介する出張展示を開催しています。古代・中世の祈りに注目し、土器や板碑を展示しています。展示は令和七年の九月頃までを予定しています。※入場無料

会期延長

### 庁舎内展示「和菓子道具のミッシン」

ご好評につき、会期延長が決定！

和菓子店を営んでいた市内のお宅からご寄贈いただいた和菓子道具約二六〇点のうち、和菓子型を中心に二五点を展示しています。多彩な和菓子道具の世界をお楽しみ下さい。

市役所一階ホールにて、令和七年六月頃までを予定しています。

## 載まちかっぱど 文化財スナップ

今回ご紹介するのは、高麗川の霞堤(戸口地区)です。

「霞堤」とは、河川の氾濫から人々の暮らしを守る堤防の一種で、所々に切れ目を設けているのが大きな特徴です。洪水の際は、切れ目から遊水地へと効率的に水を流すことで、堤防そのものの決壊を防ぐ仕組みになっています。平常時には、集落内から流れ出る水を排出するための水門としても機能し、まさに一石二鳥です。↓



龍福寺の南側付近の霞堤。奥に見えるのは新しい連続堤。

戸口地区の霞堤は、「くの字」状に折れ曲がりながら、集落の南側に沿って広がっています。写真右手の耕作地は、非常時には遊水池となり、堤の内側(左手)に位置する集落を守りました。明治時代初期には、根固めの松も植わっていたようです。

一方で、氾濫のたびに耕作地が被害を受けることから、地域の生活安定を目指して、戦後には各地で河川改修が行われました。今日では、霞堤に代わって、上流から下流まで切れ目なくつながる「連続堤」が治水の主流となっています。高麗川でも、昭和二十二年(一九四七)のカスリーン台風による大被害をきっかけに、「荒川総合開発計画」の一部として、新たな連続堤の建設が進みました。

かつては各地で見られた霞堤も、河川改修の進展に伴い、今では貴重な存在となっています。修復を繰り返しながらも、堤防を現代に守り伝えた地域の人々の暮らしに想いを馳せながら、現地を散策してみませんか。

## 学芸員のイチオシ!

連載



石器は日本列島に限らず、世界各地で古くから使用されている道具です。日本列島では、旧石器時代から使われ始め、縄文時代に引き続き弥生時代に入ってからも使用されました。

石器の種類は様々ですが、その中でも今回ご紹介するのは石鏃(せきざく)です。石鏃とはその名の通り石でできた矢じりで、主に狩猟につかわれました。矢じりを作成する際は、黒耀石やチャートなど硬い石材が選ばれました。

黒耀石はガラス質の石材で、割れ口は大変鋭利になります。この性質はナイフや矢じりの材料として非常に適しています。

写真のような矢じりの作成は、黒耀石の塊を割り、少し小さな破片を作るところから始まります。小さな破片を鹿の角などを使用し、圧力を加えて少しづつ、はがすように割って刃部を形成します。そのため、石鏃の刃には小さなギザギザがたくさんついています。

この小さな矢じりも、人々の生活に大きく貢献していました。(山下)



花見塚遺跡出土の黒耀石製石鏃

坂戸市立歴史民俗資料館だより

第8号

【発行】坂戸市立歴史民俗資料館  
令和6年 11月29日  
〒350-0212  
埼玉県坂戸市石井 1800-6  
TEL 049-284-1052  
FAX 049-284-1128

【利用案内】  
入館無料・月曜日～金曜日 開館  
(祝日・年末年始のぞく)  
午前9時～午後4時

